

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

美智子妃の歌集紐解く春月夜

白沢町 若林 ケイ

●特選の選評 平成の皇后さま。日本国民の象徴としての天皇陛下に寄り添う姿を拝見しました。作者は、その美智子さまが出版された歌集「ゆふすげ」を購入し、「帰り得ぬふるさとを待つ人らありて、何もて復興を云ふやを知らず」という東日本震災を詠まれたと思われる一首に、優しく深い心根をしのばれたという。季語の春月夜がなんともいえず、私も涙しました。

俳句



加茂都紀女 先生

初蝶や我が家の庭の鬼門より

さつき3丁目 伊藤 純夫

手話の子の内緒話や春隣

横山2丁目 小野 則雄

梅三分湖を眼下に野点席

清原台6丁目 小太刀 節子

三回忌徳利に挿す寒椿

富士見が丘2丁目 長島 道子

大賞 華ふぶき子福地藏の背に肩に

さつき3丁目 伊藤 純夫

三たての謂れよみつつ走り蕎麦

横山2丁目 小野 則雄

すすり泣く雛の声する蔵の中

平松本町 伊藤 安

お水取り僧も火となり駆け回る 闇に降る降る火の粉の雨が

緑2丁目 片嶋 青水

●特選の選評 東大寺二月堂の春の行事を体験したくて、とありました。闇の中を堂童子がたいまつを振り回し、そのあと若狭水という香水を僧が撒き、人々が厄除けと称して、争うように火を、水をかぶり穢れをはらう伝統行事。一步引いて内容を把握しないと歌ができないと思っただが、見事に再現され、敬服。

短歌



藤本 都 先生

蘭鉢は水と光に私は 温き言葉に生かされており

清原台1丁目 三木 紋子

寒中は着ぶくれなるも去年よりも 下着一枚増やしてしのぐ

鶴田町 田野辺 郁夫

朝毎に天声人語読み聞かす 妻は逝きたり失語症のままに

野沢町 鈴木 孝男

山手線歩け歩けと十時間 おおきな肉刺は完歩の証し

下田原町 五十嵐 由美子

令和6年度年間賞

令和6年4月号〜令和7年3月号の「市民俳歌柳壇」に掲載した作品の中から、左の通り、優れた作品が「年間賞」として選ばれました(敬称略)。入賞者には、後日、記念品をお送りします。

大賞 揺れ合ひて揺れて違へて百合の花 昼下がりの庭に涼を呼びをり

清原台5丁目 北市 邦子

準大賞 叢雲よ今宵な寝ひそ彦星の渡る大河を時化らすなかれ

中岡本町 池田 祐章

準大賞 二十年を妻と歩み見て見る店をつくりて町にとけこむ

陽東6丁目 原子 吉彦

手付かずのコーヒーだけが残る席

塙田4丁目 西嶋 哲生

●特選の選評 いつか見た光景。女と男の出会いと別れ。コーヒー店の片隅で起きた突然の別離、恋の破局は見た者の心中にのみがえる。失恋の痛手は耐え難いもの。それでも心を癒やし新しい出会いを信じて来る春へ一步を踏み出して欲しい。

川柳



佐藤隆久 先生

めでたくも一家全買花粉症

桜5丁目 遠藤 芳孝

猛吹雪悟りの鎮座地藏尊

鶴田町 御牧 秀世

申告も済んで一気に小腹すく

東塙田2丁目 渡辺 真左

転た寝も特技のひとつ胸を張り

下栗町 大塚 榮子

大賞 控えめに大人が過ぎす子供の日

清原台4丁目 水上 義明

準大賞 項垂れて夢の重さよハルジオン

岩曽町 川室 正男

準大賞 あと五分布団が僕を離さない

東塙田2丁目 渡辺 真左

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

裏

3208540
住所・氏名・壇名

作品への思い
作品への思い